



教授、郡教授、中野教授の喜びとわれわれに對する  
激勵の言葉を以てする、ことの出来たのは喜びに堪  
へない所である。こゝに手塚文庫設立記念號として  
記念する所以である。

# 手塚文庫設置に寄す。

## 手塚文庫の創設に際して

早川 三代 治

手塚さんの研究論文や著書  
を讀むと、該博、精密、眞摯な  
仕事振りに心をうたれずには  
おられない。どんな短い研究  
論文でもその隅々にまでこの  
研究精神がにじみ出てゐる。  
私は學問にも広い學問、深い  
學問、高い學問といふものが  
考へられると思ふ。

併し廣さ、深さがあつても必ず  
しも高い學問の境地に登り得る  
とは限らないが、手塚さんの研  
究の成果にはこの得難い高さが  
自ら備つてゐると思ふ。私は常  
に襟を正して手塚さんの論文や  
著書を讀んで來たさうして常に  
この立派な仕事の根柢となつた  
手塚さんの著書と文献通に驚異  
を感じずにはゐられなかつた。  
經濟價值學說史の研究に心身を  
うち込んでゐた手塚さんの著書  
には稀覯本が文字通り汗牛充棟  
であつた。

手塚さんが小樽を去られる  
と聞いてもお引き留めするす  
べもなく、寂寥のうちに見送  
つた私は間もなく計報を聞い  
て驚愕の念に包まれた。やが  
て故人の遺書の話が學會の席  
上なぞで耳にするに及んで、  
私は何んとかして手塚さんの  
遺書を小樽高商に留め遣した  
いものだと思つた。  
御遺族の御氣持、板谷宮吉氏の  
教育に關する篤志は期せずして

(順着到)

一點に合致した。手塚さんの魂  
のこもつてゐる七千數百冊の書  
籍を故人の最も學縁の深かつた  
綠丘學園に留めるといふことが  
念願のすべてであつた。かくし  
て故人の愛着の深かつた遺書の  
全部が今も納まるべき所に納ま  
り、生徒諸兄の手によつてひも  
とかれる事になつたのである。

手塚さんがかつてそれを愛した  
以上に、諸兄はそれを愛しなけ  
ればならぬ。書籍を愛するとい  
ふことは單にそれを愛玩するこ  
とではなくて、その中から思想  
と眞理を汲みとることである。  
東京商大に藏されてゐるメンガ  
ア文庫を見たシムムベエター教  
授は、限界効用理論を深化する  
ことは日本の學徒の學的責任だ  
と言つたことがある。

綠丘學園の生徒諸兄は手塚  
さんに對して無限の學的責任  
を負ふたのである。諸兄はこ  
の文庫の最後の一冊まで熟讀  
玩味して、手塚さんが早世の  
ために達し得なかつたものを  
掴みたまへ。それがこの文庫  
を生かす、故人の靈を悦ばす  
所以である。願はくば、手塚  
文庫を死物たらしめること勿  
れ。庶の下に埋もれしむるな  
かれ。諸兄の精神の糧たらし  
めたまへ。かくしてこそ手塚



【寫眞】右寄贈者板谷氏  
左手塚教授御一家

さんは常に諸兄の胸中に生き  
るのである。手塚さんのあの  
烈々たる好學の精神を受け繼

## 手塚教授の學績

郡 菊之助

手塚さんと私は、不幸にし  
て互に一面識がなかつた。それ  
は氏が大正五年小樽高商の卒業  
であり、私は三年後の大正八年  
の卒業で、云はば入り遅ひに母  
校に在學したためであり、卒業  
後も距離の遠隔や學會への所屬  
の相違などで、つひに親しくそ  
の降喉に接する機会を得ずに終  
つたのは遺憾である。

然し、手塚さんがえらい勉  
勵家であることは、在學中に  
幾、聞いてゐた。語學の力な  
ど、非凡であるといふことが  
我々後輩のおひだに評判とな  
つてゐた。東京の専攻部へ入  
られてからは福田博士の下で  
ゴツセンの研究をしきりに進  
みてゐられることを聞いて頼  
もしく且つ愉快に思つたもの  
である。そしてその學究的風  
格や氣質も、氏が私と隣りあ  
ひの栃木縣人であることから  
大たいの想像がついてゐた。  
私が名古屋高商へ赴任後は、  
數回出版物の送附をうけたり  
激勵の手紙を頂いたことを今  
でも有がたく思出するのである  
手塚さんの業績が、多方面で  
且つ深刻であつたことは學界の  
定評のやうである。著書はあま  
り多からず、むしろ講義書の方

Dario Dupuit  
學問  
今  
散  
ぬ  
白  
嬉  
心  
こ  
八  
幸  
ま

にしつか  
が多かつ  
考へる。  
紙上等で  
は博引  
が躍動  
示を受け  
れる文庫  
らガイタ  
てゐたの  
かつた。  
時  
も手塚  
その幼  
に、交  
たこと  
りがな  
陶をう  
らく、  
中、大